



ペットと火災

近年、室内で動物を飼う人が増えています。その室内のペットが原因で、火災が発生する事がありますので注意が必要です。

1 か 噛む動物に注意

犬やハムスター、プレーリードッグといった、噛む習性のある動物を室内で遊ばせると、電化製品の電源コードや延長コードを噛んでしまい、断線してショートし、火災が発生することがあります。意外なところでは、噛み癖のある犬が、スマートフォンのバッテリーパックを噛んだことで、バッテリー内部がショートして火災が発生した事例があります。

これらの動物を室内で遊ばせる場合は、飼い主が目を離さず、バリケードやサークル等を使用して、家具の裏やベッドの下など、目の届かない所に入り込まないように注意しましょう。



2 ペットの尿で出火することも



ペットの尿が、壁付コンセントやテーブルタップ等にかかる、コンセントと電源プラグの接続部で※トラッキング現象が発生し、出火することがあります。尿には塩分が含まれ通電性が高いことから、通常の水よりもトラッキング現象が発生しやすく、発火の危険性が高くなります。ペットのトイレの近くには電気機器を置かないようにし、壁付コンセントなどにカバーをするなどの対策をしましょう。もし尿がかかってしまった場合は、直ぐにコンセントから電源プラグを外してください。

※トラッキング現象・・・電源プラグとコンセントの間にほこりがたまったり、塩水など電気を通しやすい液体がかかると、電流が流れ火花が発生します。これが繰り返されると、次第に電源プラグの表面が炭化し「トラック（炭化導電路）」と呼ばれる電気の通り道が形成され、過電流が流れることによって発火します。

3 暖房器具にも注意

室内で遊んでいたペットが、衣類やタオルなどをストーブの近くへ引きずっていったため、その衣類などに着火してしまったり、ストーブ本体を倒してしまったりして、火災が発生することがあります。ストーブ等の暖房器具は、柵や転倒防止の措置をするとともに、燃えやすいものを近くに置かないようにしましょう。



室内で遊ばせる時は目を離さない、外出する時は放し飼いにしない、ストーブをつけたまま外出しないなどの予防をしましょう。火災予防に努めることが、大切なペットの安全を守ることに繋がります。